THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年五月廿九日　每土曜日發兌　第貳拾四號

此の繪の說明は本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十四號目次

●官報●女學叢誌○夫婦の關係●中外新報十件●學藝叢談○理學一斑〔前號の續〕○カリー氏幼兒教育學の翻譯●英語の栞附羅馬字話し●列女傳○弗拉克斯面の妻安の貞實〔表壽傳〕○烈女滞口氏○蘇小妹〔前號の續〕●和書講義○つれ〳〵草●稗史小説○西江月話〔第六回〕●女紅○裁縫七身仕立物の寸法并全羽織二尺巾裁方○ガラス類を拭ふ法○板類のペンキ塗をれとす法○西洋陶器を接く法●御伽草○聾と唖○内匠の機關○西洋隱語●古今雜話○西洋女禮一斑〔前號の續〕○日本女禮のあらまし○踏舞會の心得○此國の筆法●群芳詞苑○詩歌發句文章數件○閨秀新品○數學答式○新題○數學題

明治十九年五月廿九日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に内規相定候に付御注文の節ハ必す代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候但一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割増を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○文部省令第七號續き

第六條　圖書檢查の上特に教育に有益なるものと認むるときハ文部省より其(著、譯、編)者に賞狀を與ふることあるへし○第七條　免許證を得たる後(著、譯、編)者或ハ出版者轉籍轉居し又ハ氏名を變換したるときハ二箇月以內に文部省に屆出へし○第八條　免許證を有する期限中其圖書の版權を賣買し若くハ分版したるときハ二箇月以內に雙方連署の上文部省に屆出へし○第九條　免許證を毀損紛失したる等のときハ其再渡を願出ることを得○第十條　免許證を有する期限中に於て該圖書に改正增補等をなし又ハ書名を改めたるときハ免許證ハ其効力を失ふものとす○第十一條　無効の免許證を使用したるものハ金二圓以上二十圓以下の罰金に處す　第七條及第八條の屆出を爲さゝるものハ金一圓以上一圓九十五錢以下の科料に處す

檢定手續

第十二條　教科用圖書檢定に關する願書類ハ總て出版者所在地方廳を經て文部省に出すへし

(以下次號)

○夫婦の關係

我が邦の彌開けに開け行きて世に勢ひある文明諸國と同じ地位に立たんこと誰かは願はざるものゝあるべき苟しもこの地位に立たんことをしも思はゞ我が社會の改良を計らざるべからず我が社會の改良を計らんにはその箇條固より多かるべしと雖も必ずまづ家族の關係を改良すべし家族の關係を論ずるには主として男女の關係を明かにして以てこれが改良を講せざるべからずさて男女の關係はその國開明の度に相伴ふて進化するものにしあれば我邦婦人の位置を論ずるに先だちまづ古代蒙昧の世にありてはその有樣如何にありしかを述べて以て我が邦男女の關係の改良せざるべからざる理由を明かにせんと欲するなり

抑も古代蒙昧の世にありては人の食獸を去ることいまだ遠からず萬づの制度尙ほ定らず只何事も腕力あるものゝ意によりて定り多くの女が多くの男と群居せりと云ふまでのことなるのみされば夫婦の定りもなく親子の別ちもなく女はたゞ腕力強きものゝ意に從はざるを得ずして所謂腕づくの世の中

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なりければ殆んど男女の關係といふこともなく况て家族といふこともなかりしなり假ひ夫婦の定りあるも弱きもの〻妻は强きもの〻有となり或はまたアンダマン人のごとく最も下等の蕃民はその子が乳房を離る〻とき夫婦もまた相別る〻と云ひスペンセル氏の社會原論に據るときは群をなせる胎生獸の牝獸を爭ふて牡獸相鬪ふがごとく大古の人もまたこれと異るところなしとありて米國のチッペウエィ人は女を爭ふて相撲を取りトスキ人も人の妻を得んと欲してその夫と爭鬪をなし勝てバ必ずこれを奪ひ喜望峯の地方に住むブッシュ人種にもまた弱きもの〻妻は强きもの〻有となすの風習ありクヰンスランドのオーストラリヤ土人も女を爭ふが爲めに屢々鎗を以て鬪ひドグリブ印度人もまた女を得んがため爭鬪をなすこと恰も鹿の如しと云ふ斯のごとき風習の行はる〻は啻に男子のみにあらずして右に列記せる諸蕃族の中には一人の男にして二人乃至五人の女を有そること常なりければ此の女の中にてもまたその男を爭ひ互ひに毆鬪をなし頭より血の出づるを以て勝負を决するといひまたオーストラリヤ土人の妻はその夫の毆鬪して負けたるときはその勝ちたる方に行くこと恰も牡獅子の相鬪ふあひだ牝獅子もこれを傍觀し居りて勝ちたる方に行くと同一なりと云ふ是れ皆蒙昧なる蕃民の有樣にして今も尙ほ世界にこの人種の跡を絶たざるなり

斯る有樣なるが故に男子相互の關係も未だ定らざれば隨て男女の關係もまた定らず何事も自由自在勝手氣儘にして只腕力の外よ恐るべきものはあらざるの社會なり（未完）

◎中外新報

○御引見　去る十九日の午後　聖上皇后宮にハ目下來遊中なるルイナポレオン親王殿下を宮中へ御引見遊バされ畢つて同七時親王殿下幷に小松宮同御息所二品北白川宮と御對餐あらせられしを以て伊藤宮内大臣同夫人大山陸軍大臣同夫人伊國特命全權公使吉井宮内次官靑木外務次官同夫人杉皇太后宮大夫香川皇后宮大夫岩倉大膳大夫同夫人親王殿下の隨員ミケラ氏及高倉典侍等へ御陪食仰付られしやに承れる

○觀古美術會行啓　皇太后宮皇后宮にハ去廿三日午後一時御出門觀古美術會へ行啓あらせられたり

○西班牙國后の御分娩　去る十七日倫敦發の電報に西班牙皇后ハ分娩せられ皇子御降誕ありと見えたる旨仝十九日發兌のシヤパンメールに見ゆ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○私立女學校　陸奥宗光氏等の發企にて今度本所邊に一の私立女學校を創設せんとて頻りに計畫し居らるゝと云ふ

○緬甸王妃配所に分娩す　緬甸廢王マドラスに留置せられし折仝王妃は分娩せられたるが至て難産にてマドラス政府の軍醫ブランフート氏の手に掛られたれは王は緬甸の國例を以て仝氏へ黄金に金剛石等を鏤めたる四足碟を贈られたれども政府よりの命を帶て施療されし事なれば仝氏は受けず獨り看護婦のみ十万ルーピーの食器を受領したる由

○畠山奬學義金　故東京開成學校長畠山義成氏の舊知人等相謀て同氏の餘惠遺業を不朽に傳んと欲し金圓を醵集して畠山奬學義金と稱し之を帝國大學に寄附し其利子を以て同氏在世中の創設に係る法學化學工學科優等生褒賞の費用に充んことを該校に出願せし處同校にては之を許可せられたりと本月廿一日官報に記載されたり

○織女の慘況　此程神奈川縣下日野驛よりの通信に云ふ元來當驛は八王子を距る二里東京を距る凡そ九里の處にある片田舍にして機織を業とする者多く隨つて織女も夥多なるが其景氣よき時には織女も相應の賃錢を得らるれども現今の如き不景氣打續きては捌方も惡ければ多分の賃錢は勿論口賄ひにても雇ふものなく殆んど糊口にも差閊て一日一錢乃至二錢を自分より雇主に納めて僅に三度の食を貰ひ根限り働き居るとはさても憐れなる狀態ならずや

○學事聯合會員　仝會員には去廿一日一同東京師範學校へ赴き男子部女子部幷に附屬小學教授の摸樣を實視したる由

○學校生徒氣質鍛錬　生徒氣質鍛錬に關し文部大臣より昨十七日高等師範學校へ左の通訓令したり（去十八日文部省報告）

師範校生徒は勅令第十三號師範學校令第一條但書に示されたるの如く人の師表となるに足るへき氣質を備具せさるへからす殊に其校は尋常師範學校長及教員たるへき者を養生する所なれば尤も前文の目的を達することを務めさるへからす

（以下次號）

○囚人の婚禮　露國ノブゴロッドの監獄に繋れ居たるザミスキーと呼べるは重禁錮十四年の刑に處せられたる者あるが此程イフエレモッフなる兵卒の女と獄中に於て結婚したり此婦人は以前仝獄に繋がれ居て今年の初め赦免せられ今は靑天白日の身なれど其獄中に在りし時已に夫婦の約を結び置たれはザミスキーより結婚の儀を典獄官に出願し其の許可を得て執行したるものにて當日はザミスキーも手鎖等を取外され黑

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

色の禮服を着て獄内に設けある禮拜堂に赴きまた婦人の方ハザミスキーの兄弟に伴ハれ全く白色の禮服にて全堂に到り看守の前に於て合卺式を執行し畢つて婦人の一時間檻房内に居ることを許されたればザミスキーハ婦人を伴ふて檻房内に到りいとまめやかに談合しが時計一轉早くも別離の刻に至りければ新婦ハ名殘惜くも出檻し去れりと云々と英國の或る新聞に見えたるが獄中までの婚禮ハ開闢以來これが嚆矢なるべし

◎學藝叢談

○理學一斑　（前號の續き）

〔第三節〕理由如何の事　物の燻ゆる臭ひあるとき我々はその何物の如何にして斯る臭ひあるやを穿鑿し或るもの〻火中にあるを認めたるときはこの臭ひの原因を發見せしとか或はその臭ひのせし「理由如何」を知りしとか云ふなるべしされば何事に就てもその理如何を知るは即ちその原因を知ることなり然れども一事物の原因はまた他の事物の結果なり譬へば物の燻ゆる臭ひあるときその原因は麥藁の燻ゆるなりと分明りたれども我々は直ちに如何にして麥藁に火の移りたるか或はまたその燻ゆる原因は如何なる事ぞと尋ぬべしその時マッチの燃ゆるを藁の中に投じたるがゆゑなりと分明りたればそのマッチこそ火の起りたる原因なれといふこと判然すべしされども誰人にてかあらんマッチを摺りて投じたる人のなくてはマッチのこの所にあるべきやうなしされバマッチの此の所にありたるは誰人にても或る人が之れを投じたるの結果なりこ〻に至り我々は何故にその人は斯ることをなせしかと問ふべし不注意よりなせしか或ひは故意になせしか若し故意てなせしとなればその人をして斯ることをなす心にならしめたる原因は如何即ち斯る行ひをなせし理由如何と穿鑿するときは答へより問を起し倒底際限なかるべし

故に何事も或るもの〻結果にしてその結果はまた或るもの〻原因となりその原因もまた或る他の結果にして我々の求めんと欲するほど何ほど遠く溯るところの原因と結果の鎖りをつたひ止るところなかるべしと信ずるなり何事もその原因を求め得たるときは直ちにその理由如何の說明を得たりと云ひ原因のまたその原因を發見するに隨ひその說明益々充分となり原因と結果の鎖りをたどり登ること愈々遠ければ益々滿足の說明を得べし然れども如何に勉むるとも人間の知識は事物の起原に遠く溯ることを得ざるが故に何事に就ても充分なる說明

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はあらざるなり　（以下次號）

○カリー氏幼兒教育學　（前號の續き）

（第五節）家庭教育法および幼兒學校教育法の關係　幼兒學校と家庭の教育および普通學校との精密ある關係ハ第一に了解そべき最とも必要ある論點なり幼兒學校をして普通學校の一部なりと考がふるときハその誤謬おほいにしてその弊害もまた少小ならざるべし余輩の考がふるところにてハむしろ普通學校の教育法にとほざかるも家庭の教育法に近からんことこそのぞましけれゆゑに我が主義とするところも教導の精神と性質もまた重もに家庭のことを穿鑿せざるを得ず賢明なる慈母の教導も幼兒學校教員の才學もそのあらそふるところハその主義において懸隔あるがごとくことなるところなしされバ幼兒學校の結果ハ善良なる家庭教育の結果と同一ならしめんとするにありといへども幼兒學校においてハ家庭のごとく一已別々に教育するものにあらずして衆兒を教導するがゆゑにすこしも差ふことなく家庭の教育と同一ならんことハのぞむべからざれとも可成丈けこれと遠からざらんことをつとむべしゆゑに幼兒學校ハ家庭教育の法を模範とすることを專務なり

（第六節）幼兒學校の教育制限をたつるの必要　幼兒學校はすでに説明したるごとくその範圍外のものと相混ずることあるべからずいまだ幼兒學校に入るゝの年齡に達せざる嬰兒を混ずるときは半ば保傅をなすのことありまたすでにこの學校にとゞめ置く年齡を超えたる小兒と混ずるときは普通學校に入るべき用意の爲め可成速やかに讀書などを教ゆるはなはだ性急なるものなりとするの中にも年齡の超過せる小兒を混同するはその害最とも多く學校の爲めにもまたその生徒等の爲めにも双方ともよろしからずとすすでに幼兒學校にとゞめをくに適せざるを知るははなはだ容易なることにしてかゝる小兒は聊さか嬰兒の遊戯上にことなるところを生じすこしく粗略となり不從順となりまた物毎に考かへを起し疑問あるひは返答をなすに小供らしくなきことを交じへその友達に變更を生じときとしては不信を語ることとなりこれ等の諸件は自覺することを得るの前表にして一層高等なる教導を要するのときに達したる證據なり總て幼稚學校は教育上むつかしきこと少なからず自から滿足するははなはだ難きことなれバ寧ろ事物に臨み自由に處分するを得べきなり

（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○泰西箴諺の直譯

(甲)㈠半㈡塊㈢一の㈣麵包㈤無き㈥より㈦より善く㈧ある

(乙)㈠懶惰なる㈡人民㈢最も少なき㈣閑暇(を)㈤持つ

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Half a loaf is better than no bread.
㈠ ㈡㈧㈦ ㈥ ㈢㈤㈣

〔意譯〕半塊のパンも無きよりは勝し

(乙) Idle folks have the least leisure.
㈠ ㈡ ㈤ ㈢ ㈣

〔意譯〕懶惰者には閑暇なし

Hi no ue ni tekkyū wo watasi, sono ue ni sakana wo nosete ari. Sono soba ni neko ga nemuri oru wo mite, ippiki no saru ga sinobi kitari, nemuri iru neko no te wo torite hi no ue no sakana wo hikiyose mochi-saritari. Neko wa me wo samasite, "konnani atsui me wo miru hodo naraba hayaku sakana wo toreba yokatta, imaimasi."

◎列女傳

○弗拉克斯面の妻安の貞實 (表壽傳)

英國倫敦に有名なる雕像師あり我弗拉克斯面と云ふ幼年より圖を寫し像を雕ることを好め十五才の時に至りてローヤル、アカデミーに入りて生徒となり嶄然生徒中に頭角を露せしも家もと貧しかりければ退學して專ら產業をぞ營み居れり爰に又安田滿と名くる温和にして品行正しく且つ詩畵の趣を解する一婦人あり如何なる宿世の緣やありけん深くも弗拉克斯面の才を愛でゝ云寄りければ弗氏も亦憎からず思ひて遂に夫婦となりぬ時に弗氏は二十七才なりしが藝術學校の學監列諾兒土氏は未だ曾て妻を娶らざる所の人なれば或日弗氏に向ひ足下は妻を娶られたる由なるが足下の藝も最早これまでなりと云はれしを弗氏は家に歸りて妻安の手を執り列氏の言を具に告げ且つ絕妙の藝に至らんよりは全体の心力を出して之れに從事せざるを得ざればパ一たび羅馬にも遊ひて諸名家の名作を學ばんと欲すれども列氏の云はるゝ通り卿ありてはいと歎息して話しければ安は答て己れが夫君の藝を妨たりと人に云はれんは口惜き事なれば何は兎もあれ羅馬に遊給へ藝業を勉め

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

儉約を行ひなば必すしも成業を見ん巳れも夫君と倶に遊び列氏に結婚の決して害とならざる事を知らしめんとて夫より五年の間弗氏を扶けて一錢と雖も空く費そとなく儉約して旅資を貯へ羅馬に赴きて非常ょ勉強せしかば倫敦に歸る時にハ有名の雕像師となりロルド、マンスフィルドの記念像の如き人皆な其名作なるを稱せざるなく後ローヤル、アカデミーの雕像學師に任せられしもこれ皆な偏に安の扶助に倚るものなれバ一千八百二十六年安が死せしよりハ弗氏も甚く身體の和を傷りし程なりしと云ふ貞實安女の如き實に世の婦人が龜鑑として以て學ふべきの人になんありけれ

○烈女溝口氏

織田氏の家臣溝口七太夫と云へるハ芳子と名くる一個の女あるのみにて他に男兒あらざれば松村某の子七郎右衛門を養いて婿となしぬされぞ芳子の丈夫よして後日芳子が貞烈の名を顯すの基にでぞありけり且說七郎右衛門ハ溝口氏に養れし後織田信方の夫人に仕へ居りしが元來七郎右衛門ハ容貌婦人の如く優美の質にありけれバ夫人もいつしか愛慕の念を生してこれょ通じ給ひ醜聲外に洩るゝ事ありて芳子の耳にも聞えされば芳子ハいたく胸を苦しめそれとハなしに屢々丈夫を諫めつれど馬耳東風と聞き流し絶えて用ゆる氣色なければ芳子ハ沈思にくれ〴〵も諫むる時にハ嫉妬と思ハれ諫ぬ時へ事露ハれ主人の家を辱しむのみか我が此家も滅びぬべし今ハ丈夫を殺して己れも死せバやと思ひ決め事情を遺書よ認めて衣裳の裾に縫込み置き外に丈夫の品行を記して之を懷中なし僕を父の迎に遣ハせし間に丈夫を間室に誘ひて不意に後より短刀もて刺貫き其の轉倒を待ちて懷の書を取出し一々讀み聞かせければ七郎右衛門も流石に我がこれまでの不正なることを曉り合掌なして瞑せし程に己れも死せんとする折しも父僕を伴ひ歸來れバ具に其狀を告げたりける然るに父ハ之を制止め直に信方へ聞上げしに信方ハ大に其貞烈を稱せられしも丈夫を殺したるの罪あれバ詮方なく父に賜ひこれを殺すことを申付られしを芳子ハ更に請ふて云ふ樣妾も武士の女に侍れば願ふハ自刄をゆるされたしと父ハ再び聞え上げて漸くよ其ゆるしを得日を定めて親類緣者を呼集え纔旅にても赴くもの〻如く其日ハ朝より沐浴して紅粉を塗飾り鏡に對ひて髮なでつくるに七太夫ハ婦女の事にありければ勇あれ共若しあやまちもあらんかと刀を藏して後ろに立ち自刄よ先だち斫殺さんとするを芳子ハ鏡に摸し早くも曉りてふり返り父上何を狼狽玉ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぞと云ふ七太夫ハ涙を拭ひ汝勇ありと雖ももと婦女なれバ我れ過まちのあらんことを懼れみ手打にして呉れんとせしに圖らず汝に知られしハ遺憾なりと云ふ芳子ハ笑て父に先たち死ぬる身ハ不孝の至りよあなれどもこれハ全くこの家の絶ざることを思ふてなり妾婦女の身にあれど斯まで思ひ入るものをいかで男子に讓るべきこれ見給へと剃刀を右の大股へ刺立て父に視せる其の勇ハ流石に男子も及バしと見ゆるに父も安堵して自刄の事をもるせしかば芳子もいと悦びつ男子の通り式作法執行なひて腹を切り冥途の空へぞ赴むきけれされば當時ハもとより今に至るまで天晴其の勇を感せぬ人ハあらざりける

三百八十

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○蘇小妹　（前號續）

夜もはや明たれバ老泉ハ起出て王雱が作文を取出し次第に看來ればまことに篇々錦繡字々珠璣の如く覺えず其才を愛るの意を動したれども女小妹の心如何なるを知らざれバ兎も角これを小妹に見せて其の愛つるや如何を試みんとて姓名を隱して小妹に與へこハ是れ少年名士の作にて我に點定を求めたるものなれども閑暇なければ汝批閱し呉よと云ふ小妹ハ直に之を承て机に對ひ朱をもて初より須臾の間に批點し畢り歎して好文字これ必ず聰明才子の作る處されども秀氣泄れ盡し華ありて實なし恐くハ長久の器にあらじと云ひつゝ卷面に新奇藻麗是其所長含蓄雍容是其所短取巍科則有餘享大年則不足と批し父老泉に納還しかば老泉一見大に驚き此の如き批語いかんぞ回覆すヿを得ん回覆さば介甫（王荊公の事）必ず怪しう思ひなすべしよしなき事して卷面を汚損したりと悔居る折しも使者來りて昨日の文卷を回されんヿを請ひければ流石の老泉も手足措くなく只得卷面を割きて重ねて新に好批語を加へ遣りしに使者ハ主人の分付とて御令愛ハ何れにも許字せられしやもし否ずハ願くハ秦晉を諧ませんと云ハれ老泉ハ相府よりの御所望老夫いかで辭み申さん但し小女事ハ貌醜く金屋の選にハ到底當り難けん宜しきやうおん身より申上呉れよと答へしに乃使者ハ荊公に其の如く復命せしかバ荊公も卷面の換りしに悦ばず且つハ小妹の不姿色ならんヿを恐れつゝあれば兒子の意に適ふ丈にあるや否を探らせんと竊に人を遣りて近隣につき打听させしが其人ハ原來東坡學士常に妹小妹と互に嘲り戯れ東坡ハ嘴鬚の濃き人なりければ小妹嘲りて口角幾回無覓處、忽聞毛裏有聲傳　と云へハ東坡ハまた小妹の額顱凸起なるをもて未出庭前三五歩、額頭先到書堂前と云ひ東坡の下腮の長きを小妹ハ去年一點相思淚、至今流不到腮邊と嘲ければ東坡ハ小妹の双眼の微摳たるに因て答て幾回拭眼深難到、留却汪々兩道泉と云ふ抔の事を鬪出し來りたれば荊公も姻事ハ遂に止めるヿゝなれり然るに竊に小妹の批せし如く果して王雱ハ十九才に及びて夭亡せしと云ふ吁小妹の人を知る明なりと謂ふべし其後小妹の名ハ京城に傳播し來つて文卷を呈し姻事を求めるもの多きも皆な其の意に中らす中に就きて一卷あり陽ハに姓名を記し其の文燦爛花を栽する如くなれば小妹ハ四句を批して曰ふ今日聰明秀才、他年風流學士、可惜二蘇同時、不然横行一世と明かに其人即ち秦規（字少游）の文才大蘇小蘇（小妹の二兄）の間に有て之を凌ぐ他人及ぶなきヿを説く老

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

泉之を見て漸く小妹の氣に入たるを知り門番に豫てこの秦規秀才の來るあらば快く御目に懸らんことを告げてこなたに通せべし餘の人ハ都て彼方より會ハんと請ふも事を設けて謝るべしと分付け置しも秦規ハ來たらず抑も何故に來らぬと尋ぬるに秦規ハ楊州府高郵の人にて腹内に万言を蓄へ眼中に一世を空ふし生平敬服するハ唯り蘇家の兄弟あるのみなれば其他ハ意にもとめず今日小妹の才を慕ふて玉を衒ひ售らんことを求めたれども其名譽を損せんことを恐れて肯て行かず手紙にて寄せたるなりされば老泉ハ態々人を央みて秦氏の寓に到り其意を致さしめし處秦規ハ心中暗に喜びつまた想ふ樣ハ小妹の才名ハ巳に傳聞し居れども未だ曾て面識せず且つ其容貌の揚らずして凸額に凹眼とか云へば多分奇妙奇的烈一種特別の誂向ならん先づ一見し置かずしてハ放心なり難しと三月一日岳廟に詣て燒香するを聞き此の機を外さず往きて看んと當日朝早く趁出て道人の姿に打扮ち頭に靑布の頭巾を冠り耳の後に兩個の石の環兒を露し身にハ道袍を穿ち草履を足にかけて手に數珠と鐵鉢を持ち黎明の頃岳廟に到りしに小妹ハ轎子にてははやくも來り居れり

（以下次號）

◎和書講義

つれ〳〵草

橘道守述

第十三段

ひとりともし火のもとに文をひろげて。みぬよの人を友とするこそ。こよなうなくさむわさなれ。文ハ文選のあはれなる卷々。白氏文集。老子のことば。南華の篇。此國の博士どものかけるものも。いにしへのハあはれなる事おほかり。

〔全旨〕此段ハ。前段に同じ心の友ハ世になき物なり。いさ〳〵かたかふ友ハ侘しといひて。只古人を友とするにハしかじとの心なり。

〔語釋〕見ぬよの人を友とする　古人を友とする也。朗詠に鶴籠開處見二君子一書卷展時逢二故人一といへるか如し○こよなう　諸注みな殊の外と注すれどいまだ意を盡さず。此語ハ。必他に對へてくらぶる事ある時つかへり。たとへハ。是よりハおのれ。彼方ハ是ハ。こよなうまさるなどやうにいひて。くらへていたくかはる意なり。されバ。俗言に。くらべてみれハ。格別と云にあたれり。こ〳〵も。現在の人に對て。古人の方のよきをいふ也。○文選

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

のあはれなる巻々　文選中の面白き巻々也。文選ハ。梁武帝の子。昭明太子の撰ひし書まて。周末より六朝までの詩文を集む。三十巻あり。又あはれハ。元あ〻とはれとの歎息の聲を。連ねいふ語にて。面白きにも。悲しきにも。心に感ぞる時にいへり。こ〻ハ面白きなり○白氏文集　唐の白樂天か集なり。長恨歌。琵琶行なとも集中にあり。歌讀人ハ。必見へき書なり。故に定家卿の。詠歌大概にも。白氏文集第一第二之帙常可握翫と云り○老子　老子經○南華篇　莊子なり。さて莊周を封して。南華封人となしたるよし。群砕録ニ見○此國の博士　我日本の博達の士なり。中古の詩文を集たる書ハ。懷風藻。經國集。本朝文粹。朝野群載。菅家文草此外數多し。さて儒書内典をば擧すして。文選。文集。老莊を書のせたるハ。只兼好の心ニ面白しと思し也。

〔講解〕現世にハ同し心の人のあらねば獨燈火のもとにて書物を繙き見ぬよの昔の人を友とするか其ハ又格別心をなくさむるものなりさて其書ハ文選の中の面白き巻々白氏文集老子莊子また我國の昔しの博士のかきたる詩文の集なりとのこ〻ろ也

◎稗史小説

○西江月話　第六回

日あらず漢陽に着船したれば卞福ハ瑞虹を伴ふて家に到るかと思ひの外元來卞福の妻ハ拈酸的の領袖なれば懼怕ると一方ならず別に家を借りて瑞虹をこ〻に入れ置き手下の者に金轡を食せて此事を洩させず然るに其の中妻君に媚びるの一人ありて早くも之を告たりしかば妻君怒氣天に沖し夫と爭はんと思ひたれども却てまた沈思しつ之を掠販的に賣らんと目論見已に其男をやりて約束を結び其日にもなりければ思ふさま卞福を醉ハせて一室に鎖込一乘の轎子をつらせて掠販的と共に瑞虹の居所に到りければ瑞虹ハ不意に出て〻奈何ともそると能ハずせひなく出迎へつる〻妻君ハいとやさしき体を示し無理すゝめて他に見物の爲め同伴すると僞り手早く轎子に打乘せていづこやらん江邊人なきの處に連れゆきけりこ〻に於て瑞虹ハ妻君の途中にて金を受取り別れゆきし事もあり甚だ合點ゆかず思ひける中舁夫ハ岸に繋ける船のあたりにて肩より御せしかバ愈よ奸計に陷りたるを曉り聲を揚けて泣き悲しみ江の中へ飛込んとあせれども掠販的ハ毫も油斷せずして艙の

三百八十三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

中へ推入れ忙しく纜を解きて出帆したり此の後妻君家に歸り卞福醉醒めてまた一段の奇談あれど其ハ略して單に瑞虹の一身につき之を記せんに瑞虹ハ船中にてまた掠販的に犯され續て武昌府に到りて娼家王氏に轉賣せられ熟〻一身を想ひ見るに到底この娼家に蹈かれてハ仇を報ゆるの事ハ望絶えたり何の面目ありてかまた此世にあらんや寧ろ自害して死んものをと其の隙を窺ひ居りて決して客に接らざれば樓主鴇子もてあまし客に接れらぬ娼妓ハ家に留くとも益なければ他に轉賣せんと商議なし居る折りしも偶ま紹興の人にて武昌太守の親族なる胡悅と云へる人平生花を貪り酒を戀ふの癖ありて屢ばこの樓に登り娼妓を聘するより瑞虹の絕色麗人なるを見ていたくこれに眷戀せしかば旨くも此の人にすゝめて贖身せしめたり然るに瑞虹ハ只だ啼くのみにて身を任せざれば胡悅もいろ〱に慰さめて卿娼家にあると違ひ最早夫婦となりしからハ悲しき事もあるまじく身を任せてもよかるべきに斯くまで歎きて從ハざるハ如何なる事情ありての事ぞ隱さず告げよ我れ力にならん若しまた事の重大ならば幸ひ此府の太守ハ我舍の親戚なればこれに賴みて料理ハんと云ひけるにぞ瑞虹もこれに力を得て一々に告知せ仇を覓めて妾の爲めに耻を雪ぎ給ハらば終生の恩人夫婦ともまた奴婢ともなりて仕ふべしと荅へしかば胡悅も大に悅ひ夫婦となりし上ハ事一体に同じければ必ぞ太守に賴みて捕手を出し伱の爲めに仇を報ひ與れん心やすく思ハれよとて遂に其の夜より鴛鴦の衾を共にせり何ぞ思ハんこれも亦一片の假情ならんとハ家に本妻ありてまた嫉妬を起し常に喧嘩の絕されバ胡悅も今ハ詮方なく瑞虹を伴ひて家を出で京師に住める知己をたよりて其の嫉焰を避けたるが到り見れば其知己ハ已に死し居たるに奈何ともすると能ハす旅資も空くなりけれバ瑞虹に相談の上他の妾となさんとせしに瑞虹も度々騙されし事故今回もまた其手ならんとハ察せしも少しく我が鄉里に近き來る事なればやう〱に思案を決めてこれを聞入れ胡悅の妹と云ハれて浙江溫州府の士人朱源の妾とハなされたり

（以下次號）

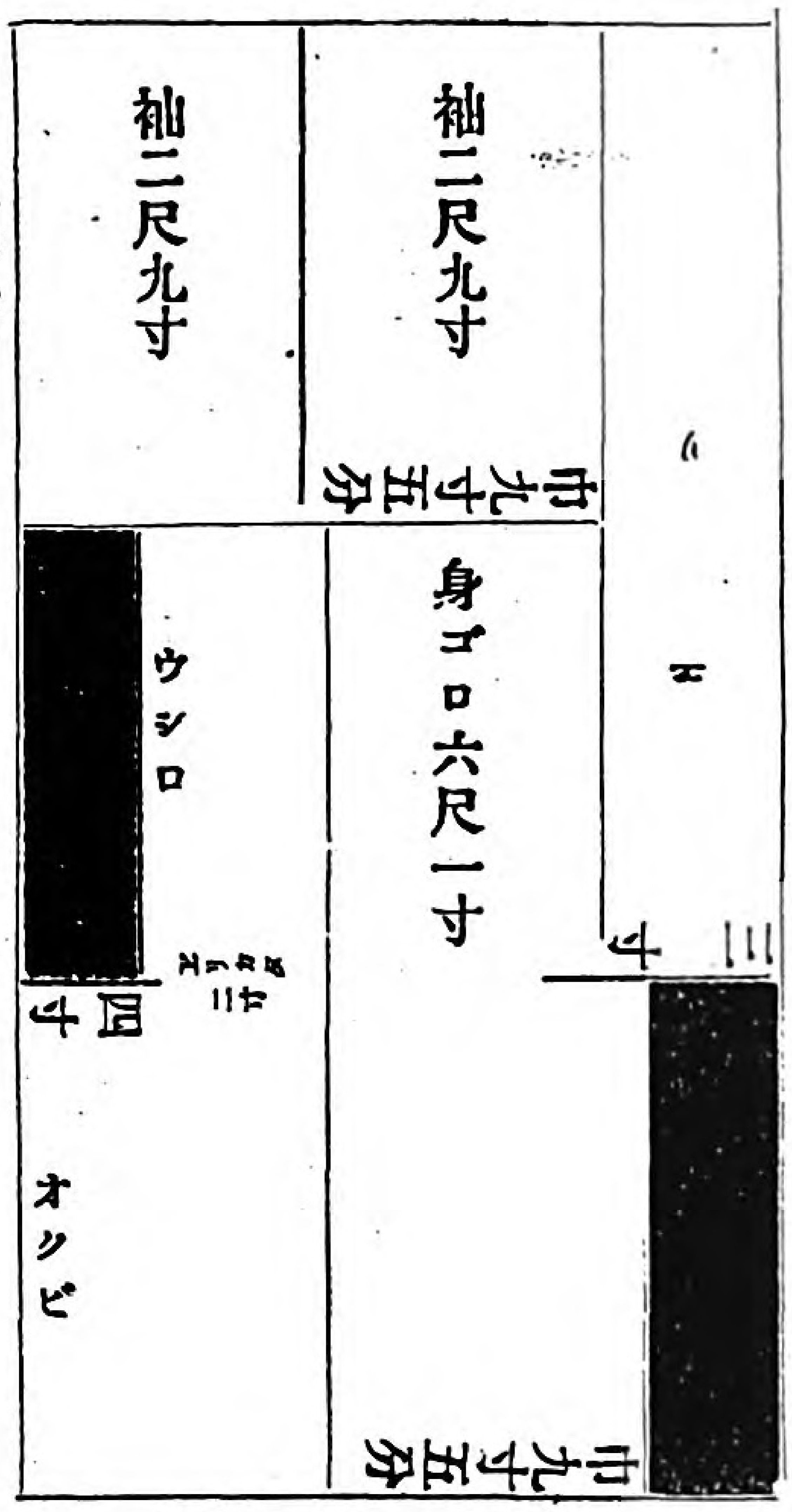
◎女紅

○裁縫七身仕立物の寸法幷全羽織二尺巾裁方

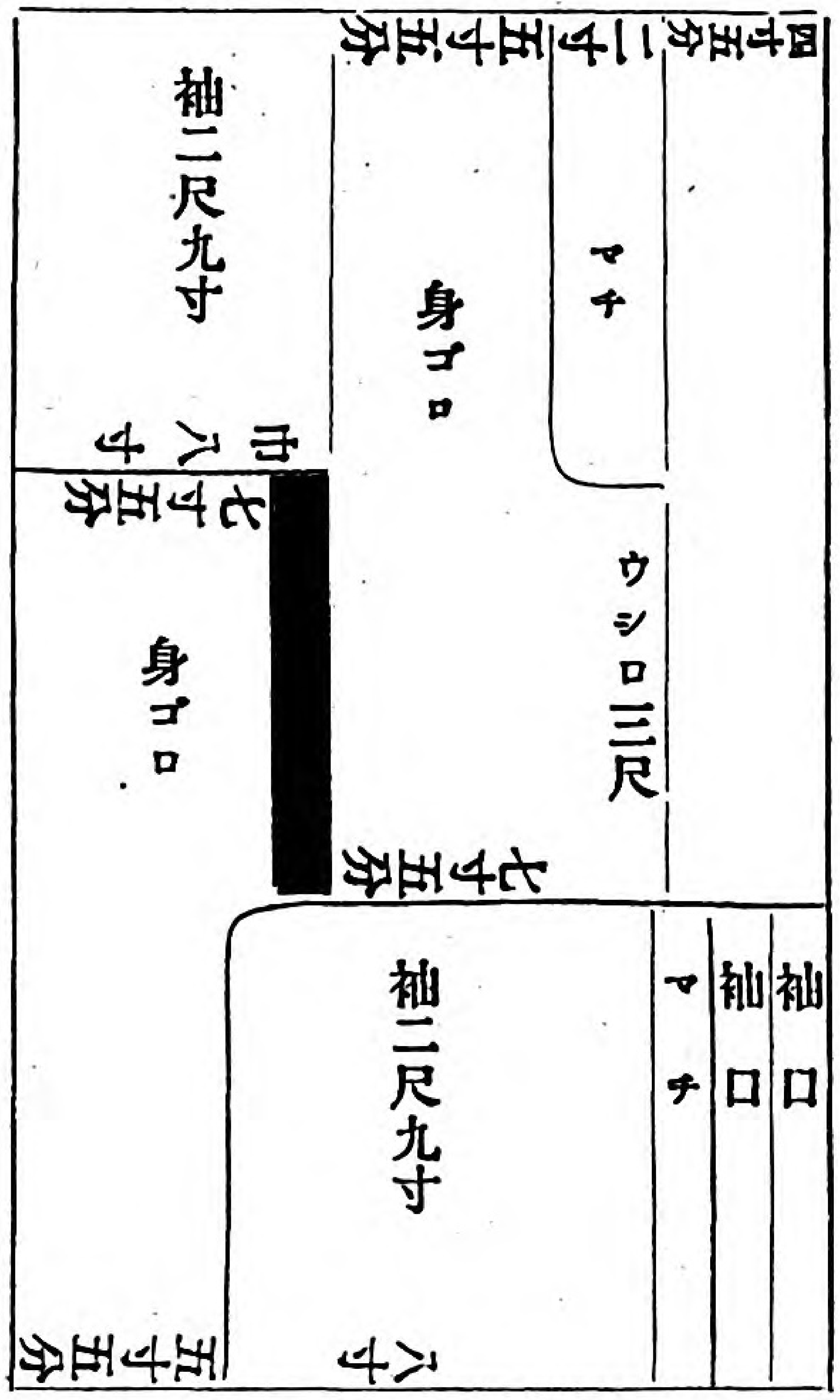
七ッ身仕立揚の寸法ハ丈三尺袖丈一尺四寸袖口六寸身わき八寸袖巾七寸五分袖附六寸身巾（うしろ七寸前五寸おくび三寸）褄下一尺二寸衽下四寸襟丈二尺襟巾一寸二分○全羽織二尺

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

巾裁方ハ丈三尺五分袖一尺四寸五分よて長九尺巾二尺圖左に



又一の全羽織二尺巾裁方の圖ハ左の如し



○燻眼製法

豚の肉に硝石を塗つけて之を砂糖に漬け又塩に漬ると四十日ばかりよして烟突の傍よ吊し燻乾かすへしこれ乃ち燻眼なり

○ガラス類を拭ふ法

ガラス窓などにペンキの附きたるあるひハその他のもの〻附きて曇りたるハ至て見ぐるしきものなり曹達を熱湯に溶かし和らかなるフランネルの切れにて洗ふときハ速かよ清麗になるものなり之れハ窓に限らずガラス類ハ何品にてもかくの如くせばその汚れを洗除するこど妙なり

○板類のペンキ塗を褫す法

洗濯曹達一斤精製石灰二斤とを水にて解かし粘りのある位ゐによく〳〵雑ぜ合してペンキに塗り附けをくべしまた古きペンキよて容易に剥褫しがたきときハ右の藥品にポッタースを半斤加ふへしさてこの藥品を塗り附けたる後ハ決て手を觸るべからず數日を經て水にて洗へばペンキ塗りハ速かよ褫るべし右の藥品を塗り附るにハ棒先きに木綿切れを巻き附けこれを以て塗り附くへし

○西洋陶器を接ぐ法

精製石灰をよく〳〵細末となし絹切れよて漉しこれを鶏卵の白みにて練り陶器の破れ目を接き合せ少しはみ出したる所へ前の石灰の細末を振り掛け糸にて括り置くべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○聾に啞

聾と啞と二人一日途に相遇ふ聾啞に對つて云ふあなたハ近頃流行まする仙台節ハ御存して御ざゐますか御存んじならバ一節謡つて御聞かせなさい大層御聲がよささうに思ハれますから啞ハ元來ろの聾なることを知り居たれバ只口を開きたり合せたりして手を叩き拍子をとり居たれば聾ハ耳を傾むくること良久しく其の口の動きやむを見て大に賞て云ふやうイヤ妙々檜物町も徒跣でござる久しく妙音を聞かなかつたが今日聞てまことに感心しました

評今也雖聾啞有訓盲啞院而得善談話及無如斯者矧尋常人無學問豈不無愧之甚耶

○内匠の機關

芝伊皿子邊よ一の貧人あり夫婦の中に男女二人の子供ありて此夫婦常に内匠の機關わり〳〵と云ひ居りしかバ早晩子供等聞覺え「阿爺や阿娘が能く内匠の機關と云ふがそれハ新橋から出る瀛車の機關のとかへと尋るに阿娘ハ「ナニそんなものかあ七ッ屋オツト機關から出た一足飛ひサ子供「そんなら其一足飛をれ見せな阿娘「オ、見せるとも〳〵併し此節の樣に暖寒が不同ではいけないから時候の極る迄四五日オ待ちと聞て大人しく四五日待て子供「阿娘此間約束の一足飛を見せてれ呉れ丁度約束の日ハ女學雜誌の發兌日だつたからもう一週間も經過ハチとせがまれて阿娘ハ詮方なく「なんだチもう遠に見たじや無かソレ綿入から單物を着たろう

評獨此貧人而已哉世間比々皆然矣

○西洋隱語

余ハ天を翔るものなり然れども翼あるに非すまた魂魄あるに非す冬より春にかけて多く兒童の為めに歡バる而して海中にも其の名を存すれども其の名ありて其實異に却て海に入れば身を毀損ふものなり

○第廿二號西洋隱語考物解當者ハ左の如し(電氣)芝長野春姐筑後本村槻姐番町堀光姐横須賀鈴木藤姐大坂山田末姐(カモジ)山田末姐廣嶋田中安姐堀光姐本村槻姐長野春姐

◎古今雜話

○西洋女禮一斑 (前號續き)

蹈舞會よ於て只蹈舞をなそが為めに婦人に紹介せられたる男子はその〻ちこの婦人に出會することあるも目禮するに及バ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

す若しこの男子より目禮そることあるもその婦人は返禮の爲め目禮をなすに及ばざるものとそ

【第二、紹介狀の事】人に紹介狀を當ふることは輕々しくなすべからず紹介狀を當ふるときはその手紙を受る人に即ちその手紙の名宛人に幾分かの義務を持たしむることとなるが故に常にこの心得なかるべからず紹介狀を受る人は紹介になりたる客人を伴ひ或る公食堂に至りて饗應をなすかあるひは人の妻となりたる人若しくはその家の主婦たるときは自家の食堂に於て饗應すべしと雖もまたその費用の掛ることとなればその人の時間を奪ひたる上に多少の費用を負はすることとなるが故によく〳〵考へて双方の利益を計るべし我が紹介をなす人を紹介を受くる人に適すべきや否また時間と饗應の費用とを費やさしむるも双方に快樂の利益を與ふべきや否を常に考ふべきことにて若し紹介をなす人先方の人に適せざる性質のものなれば快樂を與ふべき代りに却て不愉快を與ふるものなるが故に猥りに紹介狀を與へ一友人を喜ばしむるが爲めに他の一友人を苦ましむることあるべからず

紹介せらるゝ人は紹介狀を受けとり已れの名刺とともにその名宛の人に贈るべし決て自身に持參することあるべからず自ら持參するときは如何にも見識なき人のごとく思はれ使ひのものが手紙の返事を待つごとく紹介狀を讀むあひだ忍んで待たざるを得ずまた他に一つの理由ありそは先方の都合の善惡に拘はらず強て面會をなさしむることと是れなり前以て承知せず手紙と同時に面會をなす人は行儀正しき人にあらずして面會の時も飽相なる取扱ひをなすこともあるべし故に人の紹介により面會を乞ふときは常に先方の意に任すべしこれ敬禮の道にして却て愉快なり若しまた紹介狀を受けとりたる人よき教育を受けたる人ならばその手紙を受けとりたる翌日自らその客人の家に至り面會を求むるか或は名刺を殘しおくべし然る時はその週間内にその人を訪ひ返禮を述ぶべし（以下次號）

○日本女禮のあらまし

西洋の女禮は前項に掲ぐる所なり人々これよりは愈よ進んで交際を海外人に求むるの時なればこれ將た習はすしてやむべきものにあらず然りながら日本にありては自ら風俗の異るかゆゑに盡くこれに由るべきにあらず内外折衷して新禮法の玆に起されんことこそ望ましけれされば今聊か日本女禮の要を摘みて參考に供すべし

起居進退の部

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

〔下人への禮〕下人へハ兩手を膝の脇につき少しく体を屈めて禮をなすべし倘ほ輕き者へハ片手を膝の側に卸すのみにて可なり尤も下人へ禮をなすとも手をつく時ハ必ず手のひらをつくへし指の先ばかりつくべからず

〔同輩の禮〕手をつくにハ兩手の間四五寸程明けうつむくにとハ疊より五六寸離るゝやうにして禮をあすべし(以下續出)

○蹈舞會の心得　(前號の續き)

別に婦人のために一室を用意なしをかざるを得ずこの室にハ各種の鏡を多く備へをき婦人の頭髮および衣服を裝飾する手傳のため數人の侍女をも附けをくべしその室内に外套および肩掛けなとを並べ置くところを設け劇場或ハ音樂會等の例のごとく切符を附けろの半片を所有主に渡しをき入用のときハ何時にても直ちに發見ことの出來るやうになすべしまた蹈舞中不意の事あるも瑣事にハ差支へなから玄むるが爲め糸と針をも用意なしをくべし

また一室を飲食室と定めをきコフィー、レモチード、氷水、酒類およびビスキットなどを絶やさぬ用意なしをくべし若しまた一室を定めをきがたき場合に於てハ蹈舞の間にこれ等の品を持ち廻ハらしめ來客の望むものを取らすべし　(以下次號)

○此國の筆法

此國の筆法といへるハ壬辰の乱後とりことなりて此國にすめるから人の敎へしを賀茂の甲斐つたえたるなりされと今から人のものかくを見るに筆の意はあはだ違へりから人の筆の意ももろこしとは同しからずと雨森芳州が寛政年間著ハせしたわれ草よ見ゆ

◎群芳詞苑

○松間花　東京　阪井　游月

山さくら松に千歳ハ玄かねともあさひに匂ふかけのゆかしさ

○惜春　磐城　鈴木まる子

人ハ惜み花ハのこりて長閑きをこゝろぜハしく春のゆくらん

○初夏即事　駿州　江南　魯生

奈此客身知己些。閑居盡日括窓紗。聳肩時寫蠅頭字。側或看虎耳花。

評自有初夏趣妙々

○春花國字詩オコトノの韻　東京　藤田　治子

いまハのどけき春の日ぞ　さくよひらけよ冬のひの
さむさしのぎし桃さくら　いとうるはしのその花を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○閨秀新品

○落花　東京　原口　春子

朝戸出にもきとみたれてちる花をそてにうけたる庭の面かな

かくはかりをしむ心またかひつゝ散もく花のうらめしきかな

春雨もこゝろあらなん大かたのうつろふ花にものおもふころ

○同　東京　溝口　久子

人とてもよも此數はのかれましさくらと見れは散るさくら花

○田中りふ子の君を送る　原口　春子

田中りふ子の君こたひろが古郷なる筑紫にかしまたち玄たまへるとき〻玄はしのミわかれも猶物うくほいなふ思ひ侍り眞や逢ふものはまたはなるとかわらは君よ玄たしみ參らせてより程もなふけふなん別れまいらするもまさ此理はりにもれすといとうたてき限りになん侍りうゝらん時とめる人は財をもはなむけし物しりし人は言の葉をはなむけするとなん聞けとわらはさる學ひもなふ富る身にも侍らねはまたせんすべを知すさりとてやミぬるも本意ならねば腰をれ一つ二つよみ出てわらはの眞こゝろをはなむけにまいふするになん拙しとて笑ひ給ひぞ君ふるさとにかへり給ひて秋の夜のねさめかちなるをり〳〵に思ひ出し給ふとわらはば旦らはが幸よなん侍り古郷はおのつらら親しき友かきのさわにあり給ふへけれとさのみ年を重ね給はて復ひ歸來まさん春をこそいのり奉るになむ

わひ見てしろのよろこひはなか〳〵に
今日の別れのはしめなりけり

をしめとも名殘はつきしつくしかた
波もろともにたちのへれ君

○數學輕重錘の答式

$$11 : 300 = 5 : x$$

$$x = \frac{3300}{5} = 660$$

乙錘六百六十目

東京　玉井　秋女
同　富田　幸子
同　富安　芳子

○新題

和歌（暮春鶯）　俳句（杜若）

詩（惜春）五七言律隨意　文（郊外散策記）和漢文隨意片假名交り三百字を限る

數學題

金一圓に付一斗八升買の米若干を買ひ一斗七升五合づゝに賣りしに惣利米八升に當ると云ふ原金幾何なるや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

岩神正矣君編輯「ワシントン」「グランド」二氏石版肖像入

米國前大統領 **虞蘭將軍全傳** 平假名附前同斷 洋綴美製全一冊定價卅五錢

○世間其形小にして貴重なる者あり寶玉是れ也此書小冊子と雖とも將軍か一生の經歷功業を羅述し簡にして要を得たり故に一たび出板して忽ち初板數千部を賣盡し未た二月ならずして **再版** の榮を得たり凡そ將軍が幼時、出身、浮沈、南北戰爭の紀事軍略、大統領の當撰、政略、失策、世界漫遊、將軍家の落魄並遠逝葬式に至るまで將軍が自著中ゟ抄出せる上に他の近代史と參考して輯錄せる者なれば將軍の一代を知らんと欲せば之に加る寶玉なかるべし尙ほ初版に倍して愛顧を乞ふ

西森武城君編輯

● 生徒必携 **作文獨稽古** 鼇頭いろは分字類　和製中本全一冊　定價貳拾貳錢

七條峰太郞君編輯

● 女子必携 **女子作文楷梯** 鼇頭作文要用字類　和製中本全一冊　定價貳拾貳錢

從前小學校の生徒に文を敎ゆる男女一樣なるの爲め女子の爲めに不都合多きハ敎育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を敎ゆる好書なきか爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能ハず今此書ハ專ら女生徒に婉曲にして通ず易き作文を敎へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めに編著せるものにて作文獨稽古と共に小學敎員及ひ生徒諸君の錦囊たる書なり

堀內正路著

○ 千家正流 **茶の湯客の心得再版** 全一冊　細圖入白紙摺美本

舊定價四拾錢　改正廉價金卅五錢

此書ハ千家直傳の免許を受たる堀內大人の新著にして先きに出版致候處江湖の喝采を博し廉價を以て發賣致し幸いに數千部を賣り盡し今般 **再版** 仕候へば苟も茶道を好む諸君ハ一本を備へて千家の奧意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

發兌　九春堂

賣捌　續文舍

漢馬融撰　日本佐藤梘先生旁釋

○ **忠經旁釋** 木板手刷　正價拾錢　郵稅四錢

○ **明治英名傳** 正價金三十錢　郵稅共

○ 人命保險 **人間長壽法** 正價郵稅共三十錢

○ **淸國漫遊誌** 正價金四十五錢　郵稅自便

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

發行所　**續文舍**

持主兼編輯人　松本義弘

印刷人　初鹿野銻五郞

女學叢誌賣捌所

大賣捌所　東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂

同　同　神田區淡路町　巖々堂

同　同　神田區佐柄木町廿一番地　東海堂

同　神田區雉子町　團々社

同　日本橋區新葭町　長明堂

同　牛込肴町十七番地　活神堂

同　芝區愛宕下町二丁目　高梘堂

同　蠣殼町貳丁目　信文堂

同　本郷區本郷元富士町二番地　盛春堂閣田

同　同　本郷春木町貳丁目　解明堂

同　牛込區牛込神樂町　積磐舍

大坂府備後町四丁目　岡嶋支店

千葉縣千葉本町一丁目　立眞舍

山梨縣甲府常盤町　內藤傳右工門

藝州廣嶋大手町一丁目　早速社

江州彦根西內大工町　新々堂

陸前國仙台大町四丁目　木村文助

越後國長岡裏壹之町　大橋書房

神奈川縣下橫須賀旭町　大塚靜喜

驛遞局認可

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY